感染症発生動向調査委員会報告　9月

≪今月のトピックス≫

- RS ウイルス感染症の報告が増加しています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加しています。
- 成人男性を中心に風しんが流行しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握疾患

＜腸管出血性大腸菌感染症＞

14件（O157 VT1VT2 4件、O157 H7VT1VT2 1件、O157 VT2 4件、O157 H7 VT2 2件、O145 VT2 1件、O26 VT1 1件、O26 VT2 1件）の報告がありました。この中には4つの家族での家族内発症がありましたが、感染原因はいずれも調査中です。腸管出血性大腸菌感染症の家庭内での感染予防法は手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。

◆啓発用チラシ「O157に注意しましょう」
http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf

＜腸チフス＞

1件の報告がありました。渡航先（インドネシア）での感染が推定されています。

＜デング熱＞

1件の報告がありました。渡航先（ラオス、タイ、インドネシア）での感染が推定されています。

＜レジオネラ症＞

肺炎型 1 件の報告がありました。感染の原因は現在調査中です。

＜アメーバ赤痢＞

腸管アメーバ症1件の報告がありました。国内での感染が推定されていますが感染経路は不明です。

＜後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）＞

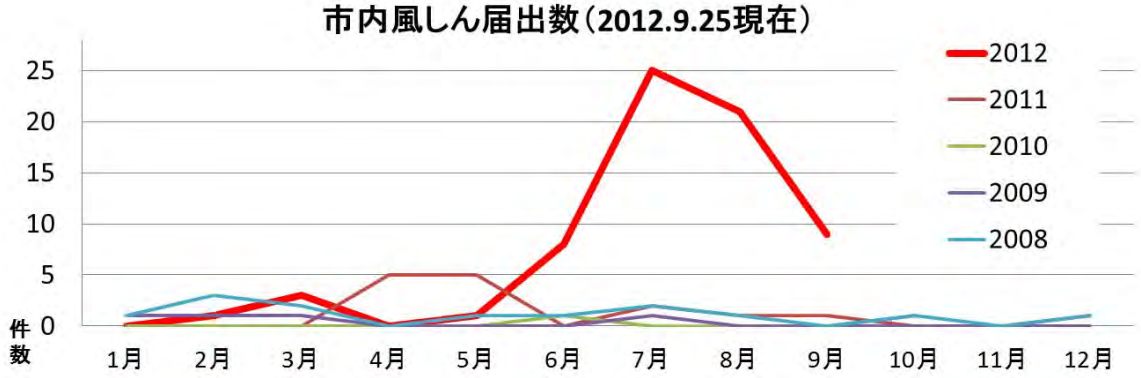
2 件の報告がありました。1 件は無症状病原体保有者で、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。もう 1 件は AIDS 症例（クリプトコッカス症（髄膜炎））で、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

＜梅毒＞

2 件の報告がありました。1 件は無症状病原体保有者で、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。もう 1 件は早期顕性梅毒（Ⅱ期）で、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。

＜風しん＞

19件の報告がありました。全国的な流行は第30週をピークに減少傾向となりましたが、東京都や神奈川県を中心とした関東地方や、兵庫県、大阪府などの関西地方などでは現在も流行が継続しています。横浜市でも9月に入っても依然報告が続いており、引き続き注意が必要です。流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の20～40歳代の男性ですが、10歳代以下でも報告されています。風しんの免疫を持たない女性が妊娠中（特に妊娠初期）に感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴を主な症状とする先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。流行を抑えるためには女性だけでなく、男性の予防接種も重要です。



◆横浜市感染症臨時情報：http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/

定点把握疾患

平成24年8月27日から平成24年9月23日まで（平成24年第35週から平成24年第38週まで。ただし、性感染症については平成24年8月分）の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成24年　週－月日対照表

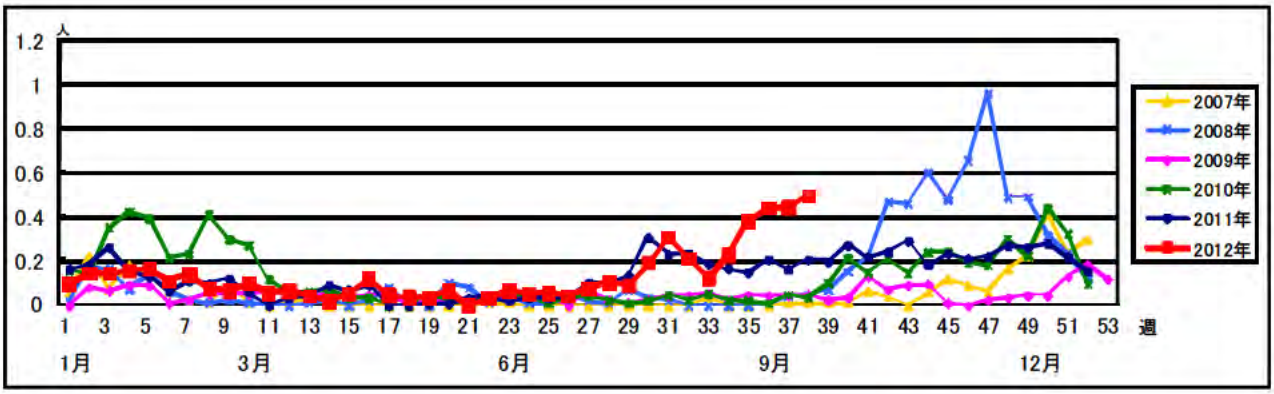
第35週	8月27日～ 9月 2日
第36週	9月 3日～ 9日
第37週	9月10日～16日
第38週	9月17日～23日

1　患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点：92か所、内科定点：60か所、眼科定点：19か所、性感染症定点：27か所、基幹（病院）定点：3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

＜RSウイルス感染症＞

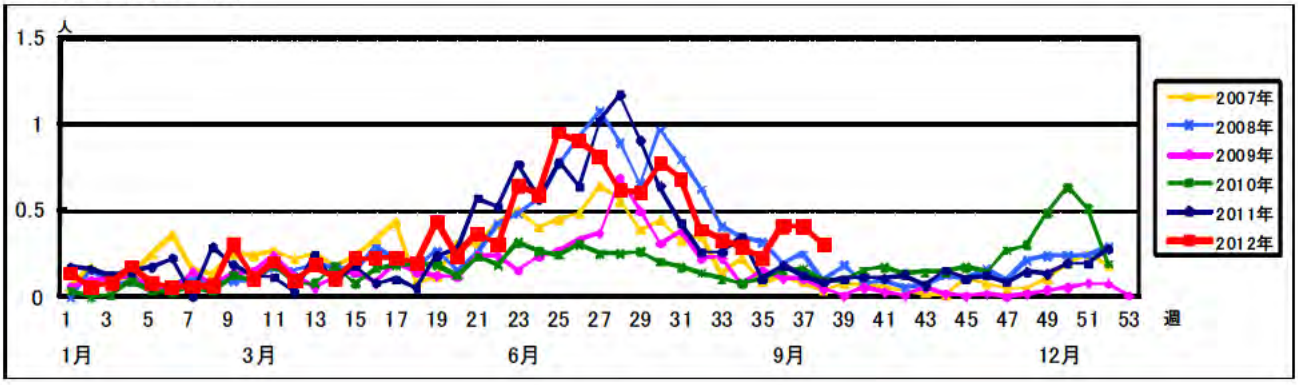
第33週は定点あたり0.13でしたが、その後増加し続け、38週は定点あたり0.50と、例年を大きく上回っています。RSウイルス感染症は、乳幼児の肺炎の原因の約50%、細気管支炎の50～90%を占めるとの報告もあり、また、低出生体重児や、心肺系に基礎疾患があったり、免疫不全が存在する場合には重症化のリスクは高く、臨床上、公衆衛生上重要な疾患です。RSウイルス感染症は例年冬期にピークがみられ、夏期には報告数が少なかった疾患ですが、全国的には2011年、2012年と2年連続して7月頃から増加傾向がみられています。2012年の報告数は第28週以降増加し、34週0.37、35週0.64、36週0.89、37週1.21、38週1.14と急激な増加がみられています。都道府県別の報告をみると、第38週では、宮崎県5.83、福岡県4.67、佐賀県4.43、山口県3.52となっています。関東周辺では東京都1.31、千葉県0.76、神奈川県0.41となっています。今後の流行に注意が必要です。



◆IDWR第36週：注目すべき感染症「RSウイルス」
http://www.nih.go.jp/niid/images/idwr/kanja/idwr2012/idwr2012-36.pdf

＜咽頭結膜熱＞

第38週は市全体で定点あたり0.31と、大きな流行は見られませんが、最近5年間の中では比較的報告が多い状況です。



＜性感染症＞

8月は、性器クラミジア感染症は男性が23件、女性が9件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が12件です。尖圭コンジローマは男性1件、女性が4件でした。淋菌感染症は男性が17件、女性が1件でした。

＜基幹定点週報＞

マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は1.60～1.40（例年定点あたり0.2～0.6程度で推移）と増加しました。今年の初めは減少傾向が続いていたものの、第18週付近から再び上昇傾向を示しており、第35週1.09、36週1.08、37週1.10、38週1.05と、1.00を上回るようになりました。横浜市でも第35週1.33、36週0.00、37週1.00と、やや報告が多い状態が継続しています。無菌性髄膜炎が第35週に1件（幼児、病原体は未検出）、第37週に1件（幼児、病原体は未検出）報告されました。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

＜基幹定点月報＞

8月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症5件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【　感染症・疫学情報課　】

２ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点：9か所、インフルエンザ（内科）定点：3か所、眼科定点：1か所、基幹（病院）定点：3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

＜ウイルス検査＞

9月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点32件（鼻咽頭ぬぐい液29件、気管吸引液2件、ふん便1件）、基幹定点2件（鼻咽頭ぬぐい液1件、ふん便1件）、その他医療機関4件（鼻咽頭ぬぐい液2件、髄液1件、うがい液1）でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎20人、RSウイルス感染症8人、発疹症2人、ヘルパンギーナ1人、胃腸炎1人、基幹定点は発疹症1人、胃腸炎1人、その他医療機関では脳症疑い2人、心筋炎疑い1人、インフルエンザ1人でした。

10月10日現在、小児科定点の気道炎患者1人からアデノウイルス（型未同定）、その他医療機関のインフルエンザ患者からAH1pdm09ウイルスが分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点のRSウイルス感染症8人と気道炎患者5人からRSウイルス、気道炎患者1人からコクサッキーウイルス2型、1人からエコーウイルス6型、1人からパラインフルエンザウイルス1型、1人からアデノウイルス（型未同定）が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

＜細菌検査＞

9月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から10件、定点以外の医療機関等からは23件あり、赤痢菌、腸管出血性大腸菌（O157:H7,VT2、O157:H7,VT1&2、O26:H+,VT1、O26:H−,VT2、O121:H19,VT1、O145:H+,VT2）、チフス菌、カンピロバクターが検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から3件で、A群溶血性レンサ球菌が検出されました。

（次ページに表）

表　感染症発生動向調査における病原体検査(9月)

感染性胃腸炎

検査年月	9月			2012年1月～9月		
定点の区別	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件　数	1	10	23	1	132	83
菌種名						
赤痢菌		2			2	2
腸管病原性大腸菌					2	
腸管出血性大腸菌		1	12		4	39
腸管毒素原性大腸菌					2	
チフス菌			1		1	1
パラチフスA菌					2	
サルモネラ					20	3
カンピロバクター	1			1		10
コレラ菌						2
NAGビブリオ						1
不検出	0	7	10	0	99	25

その他の感染症

検査年月		9月			2012年1月～9月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件　数		3	3	2	70	17	87
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌	T1	1			10		
	T2				2		
	T6				9		
	T4	1			3		
	T12				10		
	T25				1		
	T28				3		
	T B3264				4		
B群溶血性レンサ球菌							17
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			3			7	26
バンコマイシン耐性腸球菌						1	3
Legionella pneumophila							1
インフルエンザ菌					6		2
肺炎球菌					3		
黄色ブドウ球菌					1		
破傷風菌						1	
結核菌				1			4
Mycobacterium avium							1
緑膿菌				1			1
不検出		1	0	0	18	8	32

＊:定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別):A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【　検査研究課　細菌担当　】